

## 1. 気象衛星の利活用の現状とひまわり8号に期待すること

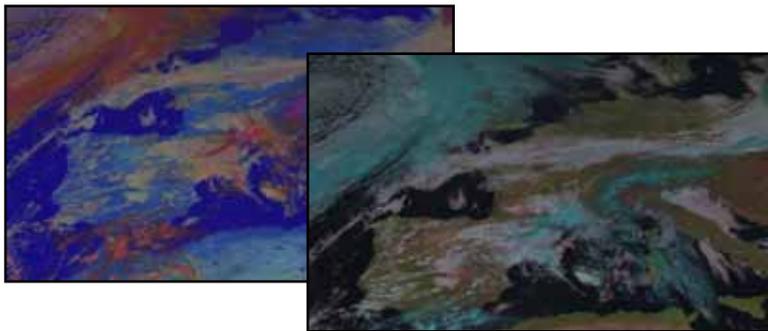
### a) ひまわり8号の高機能を活用できるサービスは限定的

地方自治体向け減災気象サービス、流通事業者向け流通気象サービス、個人向け携帯電話向けサービス等では1時間ごとの気象衛星画像で十分有効であるため、現状でも1時間ごとの情報提供となっています。30分ごとの高頻度の気象衛星画像を参考情報として利用しているサービスは、航空事業者向けサービス、上空からの撮影支援サービス、放送局向けサービス等に限られています。更新頻度の増加をはじめとした高機能化が進むひまわり衛星画像を有効に活用できる様に弊社でも努力してまいりますが、サービス全体に与える影響は限定的と言えます。

2008年2月現在で、弊社33の事業体のうち、ひまわり衛星画像を1時間ごとの更新頻度で提供している事業体が19で、30分更新での衛星画像提供を行っている事業体は5となります。

### b) 気象事業者としての気象解析利用には有用

高解像度化、観測間隔の高頻度化、多チャンネル化の新機能については10分更新の気象レーダとの重ね合わせ等も含め、台風中心位置、気象実況解析等、気象事業者としての気象解析において極めて有用です。



弊社Global Center予報センターで利用している複数チャンネルを用いたヨーロッパ域のMeteosatの画像

## 2. 公共の財産として無料提供を強く要望

水道(Water)、電力(Electricity)、交通(Transportation)、通信(Communication)とともに気象は第5の公共の資産であるとする考え方(Wet Com W)に基づいて弊社はサービスを行っています。

これは、気象衛星画像を含む全ての気象データは無料にて提供され、できるだけ多くの方に活用してもらうことが社会全体に最も貢献できることだ、という強い信念に基づくものであります。よって、気象業界のみならず、社会全体の利益のためにも気象衛星の画像が無料で開放されることを強く要望します。気象衛星ひまわりが他の衛星に比べて、皆様の認知度が圧倒的に高い理由は、気象衛星画像がメディア等含めて天気予報で使われており、皆様の目に最も触れているからに他なりません。ますます、**多くの方に「使われる」ことこそ気象衛星ひまわりの価値を高める**ことと認識しています。

以前、ひまわり6号開発の際に気象庁殿と気象事業者の業界団体である気象振興協会との間で気象衛星データの有料化は行わないとの確認がされたという経緯もありますので参考までに記述させていただきます。



Wet Com Wの考え方のもと、気象データは無料でできるだけ多くの方に使っていただくために月額300円のインフラ整備費用(気象データは無料)のみで気象衛星画像を含めた気象データを無料で開放している。  
<http://labs.weathernews.jp/>

弊社欧州の一般向けサービスの事例Meteosat 衛星画像については無料で利用可能な6時間更新の画像利用。更新頻度の高い有料の画像は未使用であり、衛星画像を**有料化すると「使われなくなる」**事例といえる。

